

## 弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者様もしくは患者様の代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	切除境界膵癌の治療成績は改善できるか (切除境界膵癌に対する術前化学療法の意義と課題)		
2. 対象患者	2001年1月から2019年12月まで弘前大学医学部附属病院で加療を受けた初診時切除境界膵癌と診断された89名の患者様		
3. 対象となる期間	2001年1月1日 ~ 2019年12月31日		
4. 実施診療科等	弘前大学医学部附属病院 消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科		
5. 研究責任者	氏名	石戸 圭之輔	所属 弘前大学大学院医学研究科 消化器外科学講座
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし		
7. 研究の意義	治療成績が良好ではない切除境界膵癌に対して、手術治療の前に術前化学療法を行うことが現在一般的になっております。同療法は膵癌術後の再発率を減らすことにより、予後延長効果につながるとされております。しかし、術前化学療法が予後延長につながっているかどうかを明らかにした研究報告はまだ多くはありません。この研究では、切除境界膵癌に対する術前化学療法の意義と課題を明らかにするものです。		
8. 研究の目的	項目2記載の対象患者様の診療録より、臨床所見、手術所見、術後所見などを検討し、術前化学療法と治療成績に関連する因子を検討し、同療法が治療成績に影響を与えているかどうかを明らかにすることを目的としています。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合はの方法等)	診療録、血液画像検査を利用し、現病歴、既往歴、年齢、性別、身長、体重などの臨床所見、CTおよびMRI画像所見、術式、合併症などの手術関連情報を利用し、統計学的手法を用いて切除境界膵癌に対する術前化学療法の予後への影響度を検討いたします。		
10. 個人情報の保護	患者様個人が特定される情報を公開することはありません。研究結果は学会等で報告されます。拒否の申し出があった場合は、研究対象から除外し、データを削除致します。ただし、既に匿名化のうえ解析済みの場合や、研究結果公表済みの場合は、データを修正することは出来ませんのでご了承願います。		
11. 利益相反に関する状況	本課題の研究代表者が所属する講座では大鵬薬品工業(株)、中外製薬(株)、アステラス製薬(株)、小野薬品工業(株)、(株)ヤクルト本社、エーザイ(株)、MSD(株)、日本イーライリリー(株)、第一三共(株)から寄附金を受領しており、利益相反状態にありますが、これらは本課題の資金源ではなく、研究は講座の研究グループによって公正に実施されます。		
12. 連絡先	弘前大学附属病院 消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科 石戸圭之輔		
	電話	0172-39-5079	FAX 0172-39-5080